

■欧州：国際エネルギー機関が CCS のロードマップを発表

英国ロンドンで開催されていた CCS（CO₂回収・貯留）に関する国際会議において、2009年10月13日、国際エネルギー機関（IEA）が CCS のロードマップを公表した。それによれば、2050年の温室効果ガス排出量を2005年水準まで削減するためには、今後2050年までに、CCSに約1.7～2.0兆ユーロ（約230～270兆円）の投資が必要である。一方、CCS技術を導入しない場合には、これに比べてさらに70%の費用増となる見込みであり、今後の10年間で同技術を軌道に乗せる上での重要な期間であるとしている。また、プロジェクト数については、2020年までに全世界で100件、2030年までに3,000件にまで加速的に拡大させる必要があるとし、実証試験を先進国のみならず発展途上国にも拡大させるための国際協力や実証試験に対する資金援助の枠組み整備の必要性について強調している。